

とっとり県政だより

2019(令和元)年7月号 通巻711号 毎月1日発行 全世界配布

2019

医療的ケアが必要な子どもたちが利用できる「博愛こども発達・在宅支援クリニック」のデイサービス。利用中は、子どもとスタッフとで過ごす



目次

P2 特集

医療と福祉、教育とロボがコラボ
～地域で暮らす難病の子ら支える～

P6 広報課 取材メモ

難病患者に生の音色を宅配
ミュージック・オフィス♪DoReMi

P7 あの人この人

ジェラートで、町に人呼び込む
ますむら ちよ
益村 千代さん(南部町)

P8 県政トピックス

- 更生保護で悪循環を断つ
- 夏場の食中毒にご用心
- 部落差別の解消目指す

P10 お知らせ

P14 手話を覚えてみよう
県広報のお知らせ

P15 読者の声・県産品プレゼント

P16 とっとり味自慢



<https://www.pref.tottori.lg.jp/207950.htm>

医療と福祉、 教育とロボがコラボ

重い障がいや日常的に医療的ケアを必要としているなど難病の子どもとその家族は、地域で生活する上でさまざまな困難を抱えています。県は日本財団との共同事業で、医療・福祉の多機能型施設を整備し、また、自宅や病室にしながら学習に参加できる機器を導入。取り組みを広げ、子どもたちと家族の地域生活を支援します。

地域で暮らす難病の子を支える



暮らし日本一 鳥取県

博愛こども発達・在宅支援クリニックのデイサービス室で友だちに風船を渡そうとする高野葉月ちゃん(中央)。利用初日の様子

支援が必要な子や家族の現状

県内には、地域で生活する難病の子どもが約500人、うち医療的ケアを必要とする子どもは約150人います。

医療的ケアとは、たんの吸引(※1)や経管栄養(※2)などの医療的な生活援助行為で、医師の指導の下、家族が行います。医療の進歩により、このようなケアを必要としながら在宅で生活する子は今後増えると予想されています。

子どもが家族や同年代の友だちと地域で暮らすことは喜ばしい反面、ケアを怠ると命に関わるため、家族は必要に応じて利用できるサポートを求めています。しかし、こうした子どもを日中預ける所は少なく、訪問看護やリハビリなどの専門職も子どもの支援には慣れていません。そのため、付き添いや看護の依頼に応えるのは難しいのが実情です。当事者の抱える課題は、難病や重い障がいなど困難の状態や程度で異なり、また、それらが複数重なっている場合もあります。

(※1) 気道に唾液やたんがたまらないよう、チューブを使って吸引する。

(※2) 鼻から胃まで、またはおなかに開けた穴(胃ろう)にチューブを通して栄養摂取を行う。

在宅支援の拠点がオープン

このような状況の下、2019（平成31）年4月、県と日本財団が共同で進めてきたプロジェクトの環として、難病の子どもと家族を支える「博愛こども発達・在宅支援クリニック」が米子市にオープンしました。同クリニックには、医師、看護師、理学療法士、社会福祉士、保育士など10人が勤務。院長の玉崎章子たまきあきこさんは、多職種体制の利点を「さまざまなニーズに合わせた支援ができるほか、スタッフも知識や技術の幅を広げることができる」と話します。

ここでは、発達障がいや感染症、てんかんなどの外来診療や通院が困難な子の訪問診療、肢体不自由児や医療的ケアが必要な子どもが日中や放課後を過ごすためのデイ



クリニック院長の玉崎章子さん



ケアを支援する専門人材育成も実施(写真提供=玉崎さん)

サービスを提供。また、今秋には1泊以上の短期入所も開始。こうしたサービスは、家族の休息だけでなく、子どもが自立していくための発達支援が目的。さらに、支援者となる人材の育成も、鳥取大学医学部附属病院小児在宅支援センター（米子市）と連携して行います。

家族や本人の安心を大事に

デイサービスを利用する4歳の高野葉月ちゃんたかの はづきは、小腸から十分に栄養が吸収できない短腸症候群のため、胃ろうや点滴からも水分や栄養を取っています。16（同28）年に葉月ちゃんが生まれてからずっと、入院生活を共にしていた母の

希美のぞみさんは「どこにも行かず、仕事もできない。息が詰まった」と当手を振り返ります。19（同31）年1月、在宅医療に切り替え。「医療的ケアがあつて母子分離保育できるのはこだけ。サービス利用中は気持ち解放され、ありがたい」と話します。

一方、このクリニックが訪問診療を行うことも院長を引き受けた理由の一つと言う玉崎さん。「訪問診療時は、『ホーム』にいる安心感から外来時とは違った姿が見られる。真の在宅支援のためには、自宅で過ごす子どもの表情を知っておかない」と訪問診療の意義に力を込めます。

サービスの利用は、クリニックにお問い合わせを。見学も受け付けています。



バランスボールを使って体の硬直を和らげる

医療法人同愛会

博愛こども発達・在宅支援クリニック



所 米子市両三柳

☎0859-29-8010 F 0859-29-8020

http://www.hakuai-hp.jp/kodomo/



■外来・入院診療、訪問診療(要予約)

	月	火	水	木	金	土	日
外来(午前9時~正午)	●	●	●	●	●	◆	休
訪問(午後2時~4時)	●	●	休	●	●	休	休
外来(午後4時~5時30分)	●	●	休	●	●	休	休

◆ : 土曜日は午前9時~午後1時

休診 : 水曜日・土曜日の午後、日曜日、祝日、年末年始

■障がい児通所事業

○医療型児童発達支援・児童発達支援/平日午前9時~午後5時

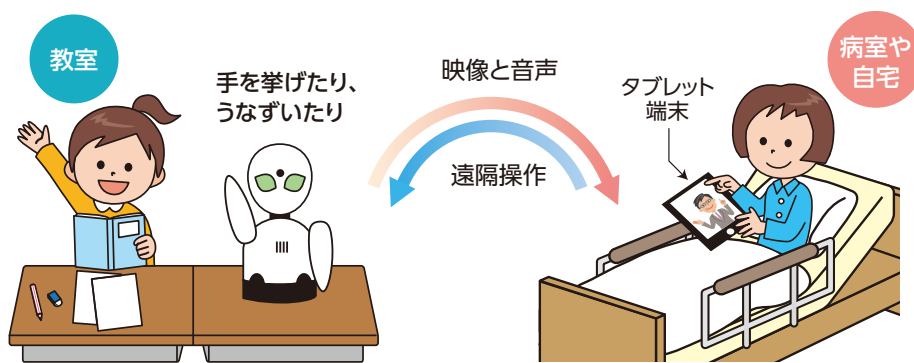
○放課後等デイサービス/平日午後1時~5時

※このほか、訪問リハビリや医療型短期入所を実施。

県は、病院や自宅で療養している病気療養児が学校の授業や行事に参加できるように、分身ロボット「OriHime(オリヒメ)Ⅱ下写真」を導入しました。教育現場への導入は鳥取県が全国初です。

分身ロボで病児の学習支援

分身ロボットによる学習支援のイメージ



手を上げる、拍手をするなど頭や腕を動かして意思表示も。上写真は「うーん」と悩むオリヒメ

オリヒメとは

オリィ研究所(東京都)が開発したカメラ・マイク・スピーカー搭載の上半身人型ロボット。タブレット端末で操作し、離れた場所で、周囲を見渡したり、操作する人の声を届けたりすることができます。

体を動かすことが困難な人や呼吸器を付けているため話すことができない人には、視線入力装置搭載のオリヒメアイが使いやすいです。

利用希望者には貸し出します

一定期間入院や自宅療養する公立学校の児童生徒に必要なに応じてオリヒメを貸し出します。希望する場合は、在籍する学校に申し出てください。利用の決定は、学校を通じてお知らせします。

オリヒメは、コラボレーション・コンサルティング合同会社が学校に届け、使い方も同社が指導します。詳細はお問い合わせください。

☎ 県教育委員会事務局特別支援教育課
☎0857-26-7575 ☎0857-26-8101

使う人に合わせ、社会につなぐ相棒

2016(平成28)年に開設された「小児在宅支援センター」に関わったことがきっかけで、病気や障がいのある子を社会へつなぐ活動を開始しました。日本財団に相談したところ、オリヒメを紹介され、実証実験に関わることに。学校の先生と共に悩んだ活用方法は、今や校内のみならず、遠足や社会科研修などにも。

コラボレーション・コンサルティング合同会社
代表社員 いしはらむつみ 石原睦巳さん、今川由紀子さん



オリヒメを「ヒメ」と呼び、県外に発信している今川さん(左)と石原さん(右)

校外にオリヒメを連れて行くことで、自宅や病室でオリヒメを操作する子も、友だちと同じ時に同じものを見ることができます。さらに、将棋やトランプでの対戦も。教室の子どもと対戦するオリヒメは、まさに操作する子の分身でした。

また、気管切開により会話ができなくなった子にオリヒメアイ(左欄参照)を使ってもらったときのこと。オリヒメを介して、わが子と会話ができたこと心から喜ばれました。

誰にでも対応可能とまではいかなくとも、オリヒメは使う人に合わせてコミュニケーションを当たり前にする方法の一つです。

これも、難病の子どもと家族を支える日本財団との共同プロジェクトの一つ。2017(平成29)年度から2年間、県立鳥取養護学校、同皆生養護学校、米子市立就将小学校に試験的に1台ずつ導入。スムーズな学校復帰につながるという結果が今年3月、県・医師・研究者らで構成される検証会で報告されました。

手を上げたり、首を振ったりするなどのオリヒメの動作は、教室の子どもたちに受け入れやすく、本人の分身として声を掛けられます。一方、操作する方も病室や自宅の様子、療養中の姿が相手側に映らないため、気を遣うことなく使用できます。

実証事業に関わった、難病の子どもへの支援団体「つなぐプロジェクト」(兼・コラボレーション・コンサルティング合同会社)の今川由紀子さんは「リアルタイムで友だちを感じることは、療養生活を送る子を治療に前向きにさせる。中には「ロボットを作る人になりたい」と将来を語る子ども」と話します。

県立皆生養護学校の実践例

同時の体験が成長促す

皆生養護学校5年生の加藤愛美さんは重い心臓病があり、感染症を避けるため、週に数回、通学して授業を受けるほか、教員が自宅を訪ねて授業をする訪問教育を受けています。登校した日には、「行けて良かったね。ありがと」と母に伝える愛美さん。学校での授業は、たとえ数時間でもうれしく、長期の休みは気持ちに張りがなくなってしまうほどです。



学校で初めてオリヒメを体験したときの加藤愛美さん(手前)(写真提供＝皆生養護学校)

オリヒメを通じた遠隔学習は、2017(平成29)年11月から。生活を体験を中心とした学習のほか、6年生を送る会や始業式の時などに活用しました。

「家の中の様子が相手側に映らないので、気軽に使用できるのが利点の一つ」と話すのは愛美さんのお母さん。愛美さんも初めは、端末の操作とオリヒメの実際の動きがイメージしにくかったものの、オリヒメを介して教室の友だちに話し掛けられ、音楽学習では友だちと共に楽しむ様子も。6年生を送る会に向けては、当日まで歌を懸命に練習しました。会には、オリヒメを使い、在校生の一人として参加。練習を重ねた歌で、みんなと一緒に6年生を送りました。

自宅で家族だけと過ごす愛美さんに、一つでも多くの経験をさせたいと願うお母さん。「会の当日だけでなく準備の段階から自分も関わることができ、その体験が自分のものになった」と娘の成長に喜びを感じています。

先進例広げ生活の安心つくる

病室や自宅からの授業参加を可能にし、学習や学校復帰の支援を担うオリヒメ。これまで実証実験を行った3校に8台が配備され、本年度から他校の子どもへの貸し出しが可能になりました。(手続きは4頁を参照)

また、博愛こども発達・在宅支援クリニックは、医療と福祉のワンストップ提供と同時に、人材育成によって在宅生活を支援する、県内初の事業を開始しました。

こうした取り組みの広がりがやがて、難病の子どもと家族が安心して地域で暮らせる社会へとつながります。

岡山県子ども発達支援課

(障がい児等の地域生活支援関係)

☎0857・267865

☎0857・268136

県教育委員会事務局特別支援教育課

(遠隔学習支援関係)

☎0857・267575

☎0857・268101

取材メモ



難病や障がいがあり、自宅で療養している人の元に出向いて、生演奏で音楽を届ける「ミュージック・オフィス♪DoReMi」。優しい音色が患者と家族の心身を癒やしています。



バイオリンの音色を響かせる小林さん(中央左)と、心のケアをする道化師「シャンピー」さん(中央奥)。依頼者の自宅がコンサート会場に(写真提供=小林さん)

難病患者に生の音色を宅配

ドレミ
ミュージック・オフィス♪DoReMi

「ミュージック・オフィス♪DoReMi」は倉吉市を拠点に活動。代表でバイオリニストの小林圭子ぼんしけいこさんは、一般社団法人日本音楽療法学会が認定する音楽療法士(※)の資格を持っています。音楽は心身の回復や生活の質向上につながると考え、医師を含む異業種の仲間と、活動に賛同するアーティストらと共に、2015(平成27)年10月に立ち上げました。



穏やかな空気が伝わったのか、聴力に障がいのある赤ちゃんが反応。演奏者にとってもうれしい瞬間(写真提供=小林さん)

患者の依頼を受けて、5000円で自宅に出張して音楽を届ける「音楽」の宅配便♪。依頼者がベッドに横たわっているときは、そのすぐそばで演奏を。依頼者は演奏に耳を傾け、リクエスト曲に聴き入ります。コンサートホールにはなかなか出掛けられない在宅療養者も、こうして非日常の体験を楽しむことができます。ALS(筋萎縮性側索硬化症)で在宅療養を行っている岡本充雄おかもとみゆゆうさん(鳥取市)は、音楽を聴いても手拍子を打つことや言葉を発することはできません。しかし、表情が和らぐ、涙を流すなど周囲にもわかる変化が。目線を使わず、妻に「音楽は人を救う」と伝えたそう。また、難病で聴力に障

がいのある赤ちゃんに音楽を奏でたときも、手で楽器に触れる動きが。「たくさんさんの奇跡が起きる。音楽の力は計り知れない」と小林さん。

これまでに17回を数えたこの活動に賛同する登録アーティストは、約3年で21人に。フルートやピアノ、チェロなど国内外で活躍する奏者が名を連ねています。一般の人にもこの活動を知ってもらうため、PRコンサートも定期的に開催しています。

「音楽」の宅配便♪PRコンサート

内容/国内外で活躍するコントラバス奏者による二重奏

日 8月12日(月・祝)午後2時30分開演
(午後2時開場)

所 倉吉交流プラザ(倉吉市駄経寺町)

問 0858-23-4888(小林)

(※)民間の資格。音楽が人の心理や認知機能に作用する力を利用して、心身に障がいのある人のリハビリを支援する。

取材を終えて

音楽はどんな人にも素直に伝わっていきと感しました。みんなの心に残る音楽をこれからも届けてほしい。(小林さん)

株式会社^{ピーシービー}pcb 代表取締役

ます むら ち よ
益村 千代さん

広島県出身。2010(平成22)年まで山陰のラジオ局でアナウンサーを務める。好物のジェラートを全国で食べ歩かうち、その魅力に取りつかれ開業を決意。イタリアでジェラート作りを学ぶ。18(同30)年、嫁ぎ先の南部町で現在の店「ジェラテリアパッチェリービー pa cherry b.」をオープン。



大山町産茶葉を使った抹茶(左)といちごミルク(右)



ジェラートで、町に人呼び込む ～地元食材満載の店オープン～

なせジェラート店を

20代のころ、仕事や旅行先で食べたジェラートは約2,000個。山間部で営業していても常に人を集めるジェラート店は魅力的でした。また、店に素材を提供する農家と、それを生かすことで農家に応える作り手との関係に感動し、開業を決意しました。

出店までの経緯は

イタリアに数回渡り、ジェラート作りを学びました。そこでは、島根県や広島県から来ていた同志との出会いも。後日、彼らの店の立ち上げに関わることで、店づくりを経験できました。

また、本場で学んだ成果を試すために、17(同29)年、イタリアで開催されたジェラートコンテスト世界大会に初参加したところ10位に入賞。結婚を機に移り

住んだ南部町で夫や地域の皆さんの協力を得て、18(同30)年7月、念願の自分の店を出すことができました。

商品へのこだわりは

「鮮度が命」のジェラート作りに妥協はありません。素材を生かし、滑らかな食感と香りのフレッシュなジェラートを作っています。素材には果物のほか野菜も。南部町産ブルーベリーや伯耆町産ユズを使った商品があります。

地域への思いと今後は

この店をきっかけに、多くの人に南部町に来てほしい。将来は職人を育成し、南部町を日本のジェラートの聖地にしたいです。



季節の味10種類から選ぶ楽しみも



ゴールデンウィークには1日に約1,000人が来店



❖ 地域で支え、再犯防止

～更生保護で悪循環を断つ～

第69回 社会を明るくする運動 ～出発式&ふれあい講演会～

犯罪や非行をなくし、社会を明るくする運動の啓発パレード出発式と講演会を行います。

■日時/7月11日(木) 午後1時～3時30分
(開場:午後0時30分)

■場所/とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)

■内容

○ふくべ砂神太鼓の演奏

○出発式

○講演会

テーマ「支え合い光輝くいのち」

講師:やなせ なな さん(シンガーソングライター)

■入場料/無料

■参加申し込み/不要

☎ ふれあい講演会実施事務局鳥取保護区保護司会
☎ 0857-21-3203

犯罪検挙者に占める再犯者の割合は、上昇を続けています。過ちを繰り返させないためには、更生しようとする人を受け入れ、支えること(更生保護)も大切です。

『犯罪白書』によると、「刑務所の再入所者のうち、約7割が再犯時無職」「出所時に適当な帰住先がなかった再入所者の約6割は1年未満で再犯」。一方、再犯者の中には、高齢者や障がい者など生活に支援を必要とする人も。

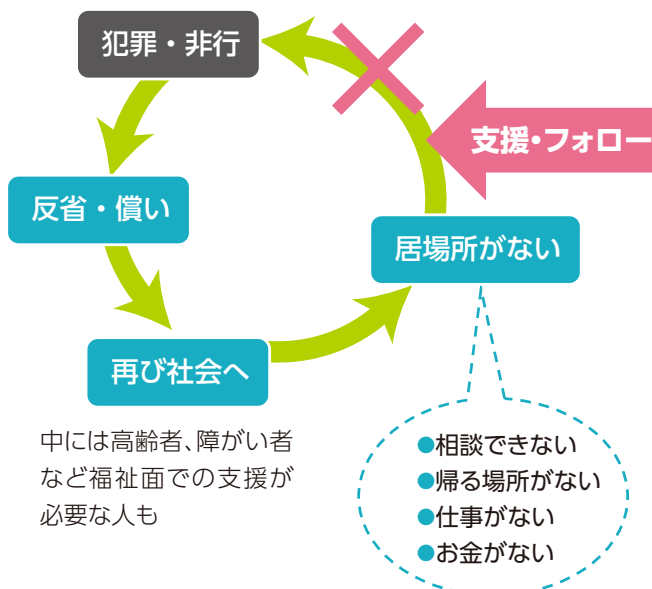
再犯の悪循環を断つには、仕事や帰る場所の確保、福祉面での支えがカギとなります。

こうしたことから、さまざまなボランティアや民間施設が、当事者の相談に乗り、指導をして孤立を防ぐなど犯罪や非行からの立ち直りを支援しています(下図参照)。

7月の「再犯防止啓発月間」は、各地で催しや講演会が行われます。犯罪や非行のない、安全な社会づくりのための活動を知らるよい機会です。

「立ち直りを支える更生保護」で再犯防ぐ

犯罪や非行から立ち直ろうとする人を孤立させないため、ボランティアや公的機関が、住まい、就労、相談などの支援を行っています。



中には高齢者、障がい者など福祉面での支援が必要な人も

保護司

保護観察対象者を見守り指導するボランティア

更生保護施設(鳥取県更生保護給産会ほか)

矯正施設(刑務所、少年院など)を出た後、帰る場所がない人に居室や食事を提供、自立指導や援助

鳥取県更生保護女性連盟

女性の立場から、犯罪予防や子どもの健全育成支援をするボランティア

BBS会 ※Big Brothers and Sisters

少年たちと兄や姉のような立場で接するボランティア団体

協力雇用主

保護観察対象者を雇用、立ち直りを支援

鳥取県社会生活自立支援センター

鳥取県地域生活定着支援センター

総合的な相談窓口



☎ 県庁福祉保健課 ☎0857-26-7158 ☎ 0857-26-8116 ✉ fukushihoken@pref.tottori.lg.jp

<https://www.pref.tottori.lg.jp/278307.htm>



❖ 3原則で原因菌から身を守る ～夏場の食中毒にご用心～

食中毒予防の3原則

■ 食品に細菌を「つけない」

- 食材に触れる前に、せっけんで手洗い。
- 清潔な調理器具や食器を使う。
- まな板や包丁は「肉・魚用」と「そのまま食べる野菜用」とに区別して。



■ 食品に付いた細菌を「増やさない」

- 生鮮食品は購入後できるだけ早く冷蔵庫へ。
- 室温での長時間放置は避ける。温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに食べる。

■ 食品や調理器具に付いた細菌を「やっつける」

- 食品の中心部を75度以上で1分以上の加熱。
食肉は中心が褐色、肉汁が透明になるのが目安。
- 使用後の調理器具は洗剤でよく洗った後、熱湯や塩素系漂白剤で消毒。



問 県庁くらしの安心推進課

☎0857-26-7284 📠0857-26-8171

✉kurashi@pref.tottori.lg.jp

<https://www.pref.tottori.lg.jp/43264.htm>



6～9月は、激しい腹痛や嘔吐などを伴う細菌性食中毒が多く発生します。予防するには、細菌を「つけない」「増やさない」「やっつける」。この3原則により、食中毒菌から身を守りましょう。

高温多湿の夏場は、食中毒の原因菌にとって増殖しやすい環境になります。細菌は肉眼で見えませんが、至る所に存在しています。私たちの手や、肉・魚などの生の食材には、表面に細菌が付いてい

るものと考えてください。手に付いた細菌は、指と指の間や爪の間までせっけんでしっかり洗って取り除くこと。また、食器やまな板、ふきん、流し台など細菌が増殖しやすいものも丁寧に洗って消毒を。

ここまで徹底しても、食品に細菌が残ることがあります。この場合、食品の中で細菌が増えないよう冷蔵保存、または十分に加熱調理し、早めに食べることが大切です。

❖ 一人一人の意識と行動が大切 ～部落差別の解消目指す～

人権・同和問題講演会

- 日時/7月19日(金)午後1時30分～3時30分
- 場所/エキパル倉吉(倉吉市上井)
- 演題/「現代の部落差別～部落差別解消への展望～」
講師:内田龍史さん(関西大学社会学部教授)
- 手話通訳、要約筆記/あり
- 託児サービス/あり。6月28日(金)までに問い合わせ先への申し込みが必要。



相談窓口

窓 口	電話番号
県庁人権・同和对策課(鳥取市東町)	0857-26-7677
中部総合事務所地域振興局(倉吉市東蔵城町)	0858-23-3270
西部総合事務所地域振興局(米子市鞆町)	0859-31-9649

メール相談: jinkensoudan@pref.tottori.lg.jp



問 県庁人権・同和对策課

☎0857-26-7074 📠0857-26-8138

✉jinken@pref.tottori.lg.jp

部落差別の解消には、私たち一人一人がこの差別問題を正しく理解し、「差別をしない・させない」との意識をもって適切に行動することが大切です。

部落差別は歴史的過程で形づくられた身分差別で、日本固有の人権問題です。特定の地域の出身、またはそこに住んでいるというだけで、結婚や就職など日常のさまざまな場面での差別が、今もなお残っています。

こうした問題の早期解決を目指し県は、1970(昭和45)年に、「部落解放月間(7月10日から8月9日)」を制定。期間中は特に、各地で講演会や研修会を行い、部落差別や人権問題を考える機会を提供しています。

今年7月19日に、エキパル倉吉で「人権・同和問題講演会」を開催。また、左記窓口では部落差別や人権に関する相談に応じています。



催し物

無

体験講座「森のいろは塾」

「山の日」を記念し、県民の皆さまに森林・林業に親しんでもらうイベントを開催。森の植物調べや木工品づくりなどの体験ができます。

■8月3日(土) 午前9時～午後3時

■内容/次の講座のうち1つを選択

①森の木々で標本をつくろう

②木で染めよう

③木工品をつくろう

■対象・定員

小学生以上(小学生は保護者同伴)・先着100人

■申込方法

郵送、ファクシミリ、電子メールのいずれかにより、住所、氏名、電話番号、希望する講座番号(2つ)を、問い合わせ先に送ってください。

■申込期限/7月24日(水) 必着

問 所 申 県林業試験場

〒680-1203 鳥取市河原町稲常113

☎0858-85-6221 ㊟0858-85-6223

<https://www.pref.tottori.lg.jp/ringyoshiken/>



ご案内

強制不妊手術等被害者の救済制度

「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」が今年4月24日に制定されました。県は、一時金320万円の請求に関する、健康被害や訴訟など、幅広く相談を受ける窓口を設けています。お心当たりのあるかたは、最寄りの相談窓口へご相談ください。

■対象者/旧優生保護法に基づき、不妊手術を受けられたかた、1948(昭和23)年9月11日から1996(平成8)年9月25日までの間に生殖を不能にする手術などを受けられたかた

■相談・一時金請求受付窓口

○東部:県庁福祉保健課

☎0857-26-7158 ㊟0857-26-8116

○中部:中部総合事務所福祉保健局

☎0858-23-3146 ㊟0858-23-4803

○西部:西部総合事務所福祉保健局

☎0859-31-9308 ㊟0859-34-1392

問 県庁福祉保健課

☎0857-26-7158 ㊟0857-26-8116

<https://www.pref.tottori.lg.jp/273803.htm>



☎事前申し込み不要 ㊟参加、入場など無料 ㊟要約筆記あり ㊟手話通訳あり

催し物

企画展「手塚治虫のメッセージ」

企画展「手塚治虫のメッセージ～人と動物、共に生きるために」を開催します。

本展では、ドードー(写真左)やニホンオオカミなど、人との関わりで絶滅した動物を、手塚治虫のマンガとともに紹介。世界で初めて展示される手塚治虫の原画もあります。

■7月13日(土)～8月25日(日)

午前9時～午後5時 ※土曜日は午後7時まで



ドードー(骨格複製)
群馬県立自然史博物館蔵



問 所 県立博物館(鳥取市東町)

☎0857-26-8042 ㊟0857-26-8041

<https://www.pref.tottori.lg.jp/tezuka/>



催し物

鳥取空港グランドオープン 1周年

鳥取砂丘コナン空港グランドオープン1周年の記念行事を開催します。人気飲食店やコナンショップとの連携フェア、飛行機見学ツアーなど1日中楽しめる企画が満載。ぜひお越しください。

■7月27日(土)、28日(日) 午前10時～午後4時

■内容

○テナントショップ連携フェア

○ステージイベント(学生吹奏楽団による演奏 ほか)

○滑走路間近で見る飛行機 離発着見学ツアー

○ワークショップ など

※詳細はホームページをご確認ください。



昨年7月28日に
リニューアルした
鳥取砂丘コナン空港

問 所 鳥取空港ビル(株)(鳥取市湖山町西)

☎0857-28-1402 ㊟0857-28-1415

<https://www.ttj-ap-bld.co.jp/>





試験

県職員(医療技術職)採用試験

2020年度から県立病院で勤務する医療技術職(正職員)の採用試験を実施します。

📅8月3日(土)

📍県民ふれあい会館(鳥取市扇町)

募集職種

薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学技士

■受験資格/1960(昭和35)年4月2日以降の生まれで、各職種に必要な資格免許を取得(見込み)の人

■試験内容/専門試験(記述式)、面接

■申込方法/郵送、持参

■申込期限/7月19日(金) 当日消印有効

※詳細は受験案内(ホームページに掲載、県庁や県立病院などで配布)をご覧ください。

☎ 県病院局総務課

〒680-8570 鳥取市東町1-220

☎0857-26-7885 📠0857-26-8135

<https://www.pref.tottori.lg.jp/byouinkyoku/>



試験

警察官・警察行政採用試験

📍鳥取・米子

職種	試験日	申込期限
警察官A(2回目)	9/22(日)	9/2(月)
警察官B(2回目)	9/22(日)	9/2(月)
警察行政(高卒程度)	9/29(日)	8/19(月)

※いずれも申し込み開始日は8月2日(金)

■受験資格

○警察官A(2回目)/1984(昭和59)年4月2日以降生まれで、短大を除く大学卒業(見込み)の人

○警察官B(2回目)/1984(昭和59)年4月2日から2002(平成14)年4月1日生まれで、短大を除く大学卒業(見込み)以外の人

○警察行政(高卒程度)/1998(平成10)年4月2日から2002年(平成14)年4月1日生まれで、短大を除く大学卒業(見込み)以外の人

※詳細は受験案内(7月中旬からホームページに掲載、県庁や警察署などで配布)をご覧ください。

☎ 県人事委員会事務局

☎0857-26-7553 📠0857-26-8119

<https://www.pref.tottori.lg.jp/jinji/>



募集

無

消防学校オープンキャンパス 参加者

本年度実施する消防職員採用試験の受験予定者を対象にオープンキャンパスを開催、参加者を募集します。

📅8月15日(木) 午後1時30分~4時

■内容/消防救助訓練、施設見学、意見交換会

■申込書/問い合わせ先で配布。ホームページから印刷もできます。

■申込方法/電子メール、ファクシミリ

■申込期限/7月31日(水) 午後5時

※詳細はホームページをご覧ください。



昨年度オープンキャンパスの様子(救助訓練)

☎ 県消防学校(米子市流通町)

☎0859-27-0353 📠0859-27-5972

<https://www.pref.tottori.lg.jp/shoubouschool/>



募集

無

シニア作品展への出品作品

県内の高齢者が創作した作品を募集します。

■対象/県内在住の60歳以上(1960(昭和35)年4月1日以前生まれ)のアマチュアの人

■部門/日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真

■申込期間/9月9日(月)~12日(木)

■提出先/各市町村社会福祉協議会

■開催要領・申込用紙/公民館、各市町村社会福祉協議会などで配布。ホームページから印刷もできます。

■優秀作品の選考

出品作品の中から優秀な作品を選考し、表彰します。

※詳細は開催要領をご覧ください。

シニア作品展

📅9月20日(金)~28日(土)

午前9時~午後5時

📍倉吉博物館(倉吉市仲ノ町)

☎ 県庁長寿社会課

☎0857-26-7179 📠0857-26-8168

<https://www.pref.tottori.lg.jp/119868.htm>



他県紙面交換

#徳島あるでないでキャンペーン

徳島県では現在、ウェブやSNSを活用した「#徳島あるでないで」キャンペーンを実施中です。

旅行会社のウェブサイト開設された徳島県特集ページでは、魅力ある宿泊プランやお得なクーポンを掲載。(実施期間2020年3月末まで)徳島県へお越しただき、あなたが撮影した写真をSNSに「#徳島あるでないで」と付けて投稿すると、抽選ですてきな県産品をプレゼントします。(応募期間8月18日まで)

ぜひこの機会に、徳島県でお気に入りのものが「あるでないで」と実感してください。

※あるでないで=阿波弁で「あるじゃないか」



陶板名画美術館
二大塚国際美術館
(徳島県鳴門市)

徳島県観光政策課

☎088-621-2702 F 088-621-2851

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kyoiku/kanko/5015076/>



こちら鳥取県警察



夏山登山を安全に楽しむために

夏の登山は、気温差が激しく、経験豊富な人でも準備や登山中の注意を怠ると、遭難する危険が高まります。十分に準備し、安全に配慮した登山を心掛けましょう。

■事前の準備・登山中の注意

- 余裕のある登山計画を立て、必ず登山届の提出を。
「コンパス(オンライン登山届・ホームページからアクセス可)」を使うと便利です。
- 気象情報や登山計画に合わせ、水、食料、雨具、防寒具、ヘッドライトなどを準備する。
- 緊急連絡用の携帯電話と予備バッテリーを携帯。
- 体調に注意し、コースの状況・気象条件などに応じて、下山するなど冷静な判断を。

鳥取県警察本部地域課

☎F 0857-23-0110 (代表)

<https://www.pref.tottori.lg.jp/66257.htm>



●お詫びと訂正

6月号8ページに記載の「警戒レベルと住民がとるべき行動」の表中、警戒レベル1の「警戒級の可能性」は、正しくは「警報級の可能性」でした。お詫びして訂正します。

CATCH the STAR 星取県情報



新月や半月の前後が好機

夏休みを前に、星空観察を計画する人もいないでしょうか。たくさんの星空を楽しむには、天気だけでなく月の満ち欠けを知っておくとよいでしょう。満月に近いほど、月明かりにかき消されて星が見えづらくなるからです。

7月は、3日が新月、9日は上弦(半月)、25日が下弦(半月)。1~6日と21~31日は星が見やすいです。また、今月から東の空に「夏の大三角」が見られるようになります。



鳥取市佐治町で撮影された夏の大三角(写真提供=鳥取市さじアストロパーク)

星空MAP



リーフレットの一部

星空愛好者をはじめ、県民の皆さまから寄せられた37地点の星空スポットをまとめたリーフレット「星空MAP」。問い合わせ先や、総合事務所、観光案内所、道の駅で配布しています。

また、「星空MAPアプリ」では、さらに多くのスポットを確認できるほか、お気に入りの地点の写真やコメントを自由に投稿できます。ダウンロードはホームページにアクセスを。

鳥取県庁観光戦略課

☎0857-26-7237 F 0857-26-8308

<https://www.hoshitori.com/ap>

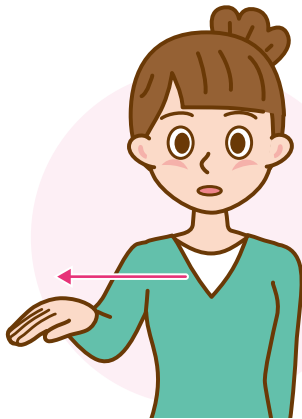




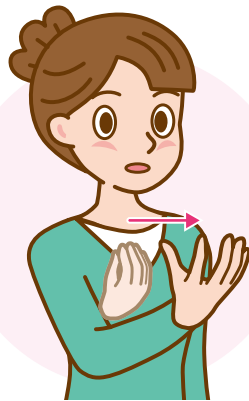
手話を覚えてみよう

「平成から令和へ」

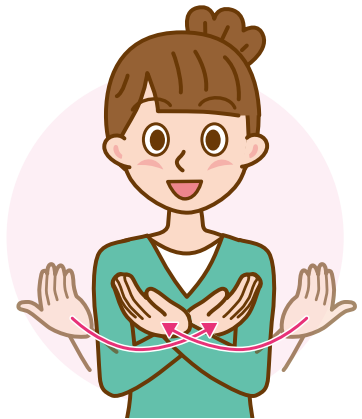
「①平成」「②令和」「③変わる」の組み合わせで表現します。



①甲を上、指先を前に向けた
右手を水平に右へ動かす



②指先を上に向けて5本の指をすぼめた片手を、胸の脇に出し、前に動かしながら指先を緩やかに開く



③手のひらを上に向けた両手を左右から引き寄せて交差させる

公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会監修

公益社団法人
鳥取県聴覚障害者協会
(米子市旗ヶ崎)

同協会では、手話監修の他、手話講師派遣、県民向けミニ講座の開催、手話通訳者・要約筆記者の派遣・養成、字幕付き映像物の貸し出しなどを行っています。



☎0859-30-3720
F 0859-30-3131
<http://torideaf.jp/>



県広報のお知らせ

Prefectural public relations



県公式ツイッター

トリピーが鳥取県の観光情報、注目情報などを発信。



県公式ホームページ

「とりネット」は、英語、簡体中文、繁体中文、韓国語、ロシア語、ベトナム語への自動翻訳機能があります。県政だよりのバックナンバーも掲載しています。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/>



英語版



県政テレビ番組



旬の県政情報をコンパクトにお届けします。

山陰放送(BSS) 毎週土曜日 午後9時54分～10時
<http://www.bss.jp/marutto/>

「とっとり県政だより」の配布・設置場所

県政だよりは、自治会の皆さまの協力のもと各世帯にお届けしているほか、県庁広報課、総合事務所および県内のローソン、ファミリーマート、ポプラ、イオン、金融機関などにも置いています。

また、点字版や録音版も作成しているのので、希望者は県庁広報課にお問い合わせください。

☎ 県庁広報課

☎ 0857-26-7840 F 0857-26-8122

✉ kouhou@pref.tottori.lg.jp

DATA

県人口/556,960人(男 266,258人、女 290,702人) 世帯数/219,846世帯 (2019年5月1日現在推計)

※「とっとり県政だより」1部当たりの経費(制作・印刷・発送)は20.8円です。



読者の声 (5月号の意見・感想から)

- 表紙のヤマボウシ、白い部分が葉だなんてびっくり。まるで白いチョウのように、記念樹にぴったりです。(60代)
- 小学生の頃、校庭のきれいな芝生から自然や緑の大切さを学びました。今の小学生にもこのような体験をしてほしいです。(10代)
- 寄る人の力を湧かせる待合所「かめの泉」は、誰もが集えて、自分の経験や特技を発揮できる素晴らしい場所。このような活動が増えてほしいです。(80代)
- セーリングの瀬川和正選手、すごいですね。鳥取県から世界へ羽ばたく選手がいることを誇りに思います。(30代)
- 今年も暑くなりそうなので、熱中症予防のポイントをよく読んで、気を付けます。(30代)



5月号には、874人からご意見をいただきました。ありがとうございます。これからもご意見、ご感想をお待ちしています。

- 星取県情報を見て、三朝温泉のスターウォッチングに友達と行くことにしました。晴れるといいな。(60代)
- クリームパスタを作ってみました。地元で採れたアスパラガスの甘みとクリームが良く合い、とてもおいしかったです。(20代)



県産品プレゼント



鳥取二十世紀梨ゼリー

二十世紀梨1玉が丸ごと入った梨のゼリー。控えめな甘さのゼリーと酸味の効いた果肉で、さっぱりとした味わいに。凍らせてもおいしくいただけます。

● 関ありのみ倶楽部 前田梨園(鳥取市河原町水根)
☎ 0858-85-1531

応募方法

下のクイズの正解者の中から抽選で5名様にプレゼント。クイズの答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢と「県政だより」を読んだ感想・意見をお書きの上、右下のいずれかの方法でご応募ください。



県は、病院や自宅で療養している子どもが学校の授業や行事に参加できるよう〇〇〇〇を導入しました。〇に入る文字は次のうちどれでしょう。

①タナバタ ②オリヒメ ③ヒコボシ

※ヒント：特集をご覧ください。

- はがき
〒680-8570 鳥取県広報課「県産品プレゼント」
- 電子メール dayorip@pref.tottori.lg.jp
- 県ホームページ応募フォーム
<https://www.pref.tottori.lg.jp/dayorip/>



締め切り：7月19日(金) 必着

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

※はがきなどに書かれた個人情報、感想・意見は、プレゼントの発送と「県政だより」記事作成の参考として使用し、これらの目的以外には使用しません。

◎5月号のクイズの答えは「①愛護」でした。



スイカの甘み ぎゅっと濃縮
スイカ糖
 ジャムのように
 ヨーグルトやトーストに添えて。

Recipe

【協力】カノウユミコ鳥取クッキングサロン
<http://yumiko-kano.com/>



素材について

豊かな土壌で育ち、大玉で甘みたっぷりの県産スイカ。北栄町、倉吉市、琴浦町など県内で広く栽培され、全国トップクラスの出荷量を誇ります。



【材料】 大さじ1(約20g) 49kcal 塩分0.0g

スイカ ……………小さめのもの1個

【作り方】

- ①スイカの皮を除き、一口サイズに切り分け、果肉と種をミキサーにかける。
 - ②①を布でこし、鍋に入れて火にかける。沸騰したらあくを取り除いて弱火にし、時々混ぜながら2、3時間煮詰める。
 - ③②を混ぜたときに鍋底が見えるようになり、とろりとしてきたら出来上がり。煮沸消毒した瓶に注ぎ入れ、密閉して冷蔵保存する。
- ※冷めると少し硬くなるので、好みの濃さの一手前で火を止めるのがポイント。

4月号から農作物をおいしく食べてもらえるレシピを掲載中。

とっとり 県政だより 7
 2019(令和元)年7月号
 編集発行/鳥取県広報課 〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
 [電話]0857(26)7840 [ファックス]0857(26)8122 [Eメール]kouhou@pref.tottori.lg.jp



令和2年(2020年)4月入学者対象 [広告]

オープンキャンパス

7/30 火 対象 中学校1~3年生

7/31 水 対象 小学校6年生

●授業体験 ●校舎見学 ●在校生トークセッション 要予約
※詳細はホームページへ

学校法人鶏鳴学園
青翔開智中学校 高等学校
 SEISHOKAICHI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

〒680-8066 鳥取市国府町新通り3丁目301-2
 TEL 0857-30-5541

青翔開智 <http://seishokaichi.jp>



※広告は広告主の責任において掲載しています。広告内容などを県が推奨するものではありません。